

体験談レポート

ユーザー： A.O(30代・男性) 福島県
商品名： ニュウモラップジャケット
テスト日時： 2009年10月31日～11月1日
天気： 晴れ・無風(11～28)
アクティビティ： MTB(A&F 24H MTB CUP・伊豆)
当日のレイヤリング： フラッドラッシュスキムメッシュ、
ドラウトセンサージャケット、
ニュウモラップジャケット



～私のレイヤリングの幅を広げてくれた～

31日の朝、ピットでテント設営など準備をしていると、下り坂の天候を象徴するかのように、時折テントを飛ばすような強風が吹き付ける。しかしそんな風も午前中だけで、12時のスタートの時には無風となり、伊豆の温かい日差しに照らされ気温も28℃まで上昇する。今回のチームは10人体制で、私は7番目の出走。最初の出番は14時に回ってきたが、風も無く気温が高いので、フラッドラッシュスキムメッシュTの上に半袖バイクジャージで走る。1周2.8kmの周回コースを全力で2周漕ぐので半袖ジャージでも暑いくらい。1周をだいたい8～9分で戻ってくるので、次の出番は2時間半後の夕方17時にやってきた。

3巡目からは夜間走行へ突入。睡眠時間を確保するため1人3周に増やしたので、私の出番は夜9時にやってきた。風は無かったが、気温が13℃と低くなってきたので、まずフラッドラッシュスキムメッシュTをフラッドラッシュスキムメッシュロングスリーブに変更し、その上に走行中の発熱発汗を考慮してドラウトセンサージャケットを着用。更に走行中の防風対策としてニュウモラップジャケットを着用した。



ローラー台で体が温まる程度にアップしてから出走すると、1周目は発熱、発汗量とも少なく走行時に受ける風をニュウモラップジャケットが防いでくれるため、心地よい暖かさで走ることが出来た。2周目からは体温も上昇し汗を感じるようになったが、ニュウモラップジャケットの透湿性と防風性で内部が蒸れることもなく走行時に受ける風を防いでくれるので、下りでも寒さを気にせず3周の走りを楽しむことが出来た。

4巡目は深夜1時半にやってきた。気温は予想以上に下がらず11℃。想定していた1桁台の気温まで下がらなかった。あまり気温が変わらないので3巡目と同様のレイヤーで3周したが、寒さは全く感じず、蒸れによる不快感も無く夜間走行を楽しめた。

5巡目は日の出間近の5時半に巡ってきた。気温はちょっと上がり14℃で風はスタートから変わらず無風。我慢出来ない温度ではないので、ニュウモラップジャケットの効果を体感すべくアップ後ニュウモラップジャケットを脱いでフラッドラッシュスキムメッシュロングスリーブとドラウトセンサージャケットだけで出走してみる。走り出しは体温も上がっていないので、予想通り風を受けて肌寒い。ピット付近の緩い下りのストレートを抜け、舗装のスイッチバックをひと登りしたところで体温が上がり寒くなるが、下りのたびに風を受けてニュウモラップジャケット着用時には感じなかった明らかな体温の低下を感じた。コース上に長い下りがあればかなり寒い思いをするはめになったと思う。

6巡目以降は、前のチームを追いかけるためローテーションを変更。周回数も1～2回に減らし、タイムの早い8人で回す。結局、前のチームに追いつくことは出来なかったが、最後まで気の抜けない展開で24時間レースを楽しめた。

今回のようなレースでは発汗量が多いため、防寒防風対策でウインドブレーカー等を着ると内部が蒸れてずぶ濡れになることが多い。よって、どちらかというところ寒さを我慢して5巡目のようなレイヤーで走ることが多かった。しかしニュウモラップジャケットは、30分程度の短い走りであったが、激しい運動にも関わらず、あの薄さで今まで体験したことのない高い防寒防風、透湿性を示して、寒さを我慢することなく快適な選択肢もあると私のレイヤーの幅を広げてくれた。

